

2026

3

March
No. 397

広報

みしま



福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

2月21日に実施された「雪と火のまつり」において、サイノカミ立てを川井地区の方々と一緒に行う三島中学校の生徒たち。

第53回 雪と火のまつり



サイノカミと花火

夕刻には滝谷地区で採火した種火を松明行列と子どもたちの鳥追いで会場へ運び、点火しました。来場者は、無病息災や家内安全を願いながら、燃え上がる炎を見守りました。

花火が打ち上げられ、冬の夜空を彩った後、会場では最後の福々餅まきが実施されました。53回目の開催にちなみ、53個の景品引換券入りの餅がまかれ、会場は賑わいました。

冬の青空の下、多くの来場者を迎えたまつりは、盛況のうちに幕を閉じました。



2年ぶりの開催

第53回雪と火のまつり(主催・雪と火のまつり実行委員会)が、2月21日、町交流センター山びこ前広場で開催されました。

本まつりでは、サイノカミをはじめ、鳥追いや団子さしなど、三島町に伝わる小正月行事が再現されました。

開催に向けては御幣(オンペ)づくりや御神木の準備、団子づくり、鳥追いの旗づくりなどが進められ、多くの町民が協力しました。

会場では、高さ約8メートルのサイノカミが川井地区の皆さんと三島中学校の生徒により建立されました。作業の様子を見守る中、次第に形づくられていきました。

開会挨拶の後、団子さしや借り物競争が行われました。また、会場にはさまざまな出店が立ち並び、来場者は会津地鶏の焼き鳥や会津牛のホルモンなど、地元の名産を楽しんでいました。さらに今回も海と山交流事業で関りのある、いわき市のNPO法人よつくらぶの皆さまにより、常磐ものの魚を使ったあら汁が振る舞われ、会場は賑わいました。

特別企画展「ふりかえる三島町の歩み」開催

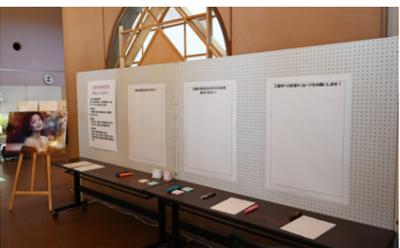
～ふるさと運動50周年記念・テレサ・テン没後30周年記念～

雪と火のまつりが行われた2月21日、交流センター山びこ館内では、町主催による特別企画展「ふりかえる三島町の歩み」が開催されました。本企画展は、昭和49年に始まった「ふるさと運動」の50周年を記念して開催したものです。

「ふるさと運動」は、都会に住む方々に特別町民となっていたいただき、ともに理想のふるさとづくりを進めていこうとする取り組みです。これまでの50年にわたる歩みを、資料や写真で紹介しました。

また、昭和52年に来町したテレサ・テンさんとの交流にも焦点を当て、没後30周年に合わせて貴重な映像や写真を展示しました。

来館者は、展示に見入り、三島町の歩みと今後の展望に思いを寄せていました。



【宮下】みんなで楽しくひな人形作り-宮下分館ふれあい事業-(1月24日) 小島 純さん

1月24日、宮下分館（五十嵐健二分館長）では、午前9時から宮下活性化センターにおいて「宮下分館ふれあい事業」として、高清水地区で行われている「ひな流し」のひな人形作りをしました。

教育委員会の小柴奈穂美さんを講師に迎え、懇切丁寧に指導していただきました。
地区住民23名の参加があり、子どもたちから年配の方まで一生懸命ひな人形作りに励んでいました。

ひな人形完成後は、宮下婦人会が調理した「すいとん」を食べながら、ひな人形作りについて楽しく語り合っていました。



▲ ひな人形作りの様子



▲ ひな人形

【高清水】無病息災を祈る百万遍 (2月7日) 高清水区長 矢澤 倉一さん

2月7日夕刻から、地区伝統行事「百万遍」が行われました。

昔は、子どもがたくさんいましたので、子どもたちが百万遍の数珠を担いで家々を回りましたが、今年は小学4年生の矢澤源真さんと1年生の紗雪さんの2人が中心となり、ご両親と地区役員とで家々を回りました。

小学生の2人が元気に訪問すると、皆さんがにこやかに迎えてくれ「ナンマイダ、ナンマイダ」と唱えながら、長い数珠を3回回し数珠の大きな玉が回ってくると頭につけ、頭病みがないよう祈ります。

百万遍は、昔、京都で疫病が蔓延した時、お寺の住職が7日間不眠不休でお経を百万回唱え、疫病を退散させたといういわれがあり、全国各地で行われるようになったようです。

今年も皆さんが、元気で暮らせるようお祈りして回りました。

**ひやくまんべん
伝統をつなぐ桑原の百万遍**

節分前日の2月2日、桑原で伝統行事「百万遍」が行われました。

同地区の中学2年生・二瓶健さんと、小学4年生・河越真宙さんが中心となり、家族や地区役員とともに、お堂に保管されている大きな数珠を担いで各戸を回りました。

お堂の前や道中では、鉦を鳴らしながら「なんまいだー かんまいだー 何もかにも後生だ」と皆で唱えます。数珠が家に迎えられると、家の人は家内安全や無病息災などを願い、房を頭にあてて祈ります。

かつては、屋内で数珠を廻す形で行われていましたが、河越家では久しぶりにその方法を復活させ、参加者は笑顔で数珠を廻しました。

また、今年はNHKの取材も入り、4月中旬頃に放送される予定です。



▲ 家の中で数珠を廻す



▲ お堂の前で鉦を鳴らしながら数珠を廻す

「交通事故死者ゼロ6000日」**～福島県交通対策協議会会長表彰～**

三島町は、2月2日午前0時現在で、交通事故死者ゼロ6000日を達成しました。会津地方で最も長い継続日数となっています。

これを受け、三島町交通対策協議会に対する福島県交通対策協議会会長表彰の伝達式が2月9日に町民センターで行われました。

式では、会津地方交通対策協議会長の今野一宏県会津地方振興局長から、町交通対策協議会長の矢澤源成町長へ表彰状が手渡されました。

矢澤町長は「今回の受賞を励みに、今後も交通安全活動を推進していきます」と述べ、継続への決意を示しました。



▲ 左から、二瓶町議会議長、今野会津地方振興局長、矢澤町長、石井会津坂下警察署長、五十嵐交通安全協会三島分会長

同日開催！ 令和8年3月14日(土) 15日(日)**第45回三島町生活工芸品展****場 所／三島町生活工芸館****開催時間／ 14日(土) 9:30～16:00
15日(日) 9:00～15:00**

三島町の工芸品の原点である「生活工芸」。
雪国の暮らしの中で作られ、使われてきた工芸品がここに
あります。
編み組品をはじめ、木工品や染織等、三島町在住の工人の
手作りの品が集まります。

問 三島町生活工芸館 ☎ 0241 (48) 5502

**【西方】団子まき用の托鉢^{たくはつ} (2月14日)**

本名 与四郎さん

2月14日の聖バレンタインデーでもある土曜日の午前9時より、西隆寺遠藤孝弘住職を先頭に青木喜章さん、北館長一さん、小松正信さん、秦次雄さん、星幸衛さん、小堀庄太郎さんの護持会の皆さんによる団子まき用の「托鉢」が行われました。世界中を席卷した新型コロナウイルスの蔓延により、6年ぶりの托鉢になったということでした。

早朝から天候に恵まれ、陽光の射す中、各家々では、前もって準備しておいた団子まき用のお米を手渡す光景が見られました。

また、遠藤孝弘住職による心温まるお経が雪解け始まりつつある銀世界の空いっぱいに響き渡りました。ご厚意により施しを受けたお米を使い、3月18日(日)に近くの檀家の女性の方々が西隆寺の庫裏に集まり、5色の小さな団子作りをするということでした。

なお、恒例の「団子まき」は、3月20日の春分の日の午前11時より西隆寺本堂で行われる予定になっており、護持会会長の青木喜章さんは、地区民だけでなく、町内外からも春を呼ぶ団子まきに足を運んで欲しいと待ち望んでおりました。

**第25回全国編み組工芸品展****場 所／三島町交流センター山びこ****開催時間／ 14日(土) 9:30～16:00
(8:30より表彰式開催)
15日(日) 9:00～15:00**

編み組細工展示販売、奥会津編み組細工実演コーナー 等
【飲食出店 (予定)】 キッチン MORy・ハシノハシ・
茶吧 (TEABAR) 誠

問 奥会津三島編組品振興協議会 (三島町生活工芸館) ☎ 0241 (48) 5502

**【桧原】子どもの歳の神 (2月15日)**

阿部 和彦さん

1月末の大雪も落ち着いて、本年も桧原地区では春日神社境内前の広場で「子どもの歳の神」が実施されました。

晴れ間に見える午後1時、役員8名と地区から2名、さらに今年は小学生2名が会場に集まりました。

1月15日に使われた御神木を再利用し10mから6mに切り、新たな藁を巻いて御幣(オンベ)を取り付け「子どもの歳の神」が完成しました。

午後7時、会場に集まった中で桧原区長の合図とともに子どもたちが点火を行いました。桧原地区だけで行われている「子どもの歳の神」とは、子どもたちに歳の神をとおして火の大切さや恐さ、物を大事に扱う気持ち、お互いの協力や団結が必要なことを教え、大人へ成長する為の場なのだと思います。

冬の星空の下、燃え上がる炎に子どもたちの健康と安全、健やかな成長を祈願しました。



健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係 ☎ 48-5565

減塩のみでなく

“排塩”で、より降圧効果を！

食品に含まれるカリウムには体内の余分な塩分を排出してくれる“排塩”効果があります。減塩と合わせてカリウムも意識して取り入れることで減塩のみよりも降圧効果が期待できます。

(高血圧管理・治療ガイドライン2025より)

カリウムが多い食品は？

野菜 1日350g以上（両手のひらに山盛り程度）、果物・乳製品・豆類などにも多く含まれます。

※腎機能が低下している方はカリウム摂取に注意が必要です。かかりつけの病院や町保健師、栄養士等に相談しましょう。



野菜を食べる際の調味料（ドレッシング等）も減塩にするとさらに減塩効果がアップ！

三島町の食塩摂取量は？（令和7年度総合健診 推定尿中塩分摂取量）

令和7年度三島町総合健診における推定尿中塩分摂取量（平均）は男性9.5g、女性9.1gでした。年々減少傾向にありますが、国が定める目標値より男性2.0g、女性2.6g多い状況となっています。

食塩の摂り過ぎは高血圧になるリスクが高くなります。高血圧が続くと動脈硬化が進み、心臓や脳血管疾患等に繋がるため『減塩＋排塩』でより効果的に高血圧を予防しましょう！

	目標値	三島町 (平均値)
男性	7.5 g未満	9.5 g
女性	6.5 g未満	9.1 g

※高血圧治療中の方は6.0g未満が目標

図書のご案内

町民センターゆめぼけっと

※本の貸出し期間は2週間です。

次に利用される方のためにも、返却期限をお守りください。

☎ 公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ

叫び

畠山 丑雄 著

大阪府茨木市で働く公務員の男性・早野。荒んだ生活を送っているなかで「先生」と呼ぶ男と出会い、銅鑼づくりやその土地の歴史を学んでいきます。現代と過去の二つの万博をモチーフとして、現実と幻想が入り混じった文体で構築された物語です。



●図書の紹介



カフェーの帰り道

嶋津 輝 著



成瀬は都を駆け抜ける

宮島 未奈 著



二番目の悪者

林 木林 作

ゴミ特集 vol.8

ペットボトル回収ボックスを川井地区に設置しました

これまで冬季間の回収がなかったペットボトルのリサイクルを促進するため、川井地区のごみ収集車置場に回収ボックスを設置しました。年中24時間いつでもご利用できます。また、同じ場所に紙の資源ゴミも持ち込めますので、併せてご利用ください。



場所は国道252号線沿い、サービスステーションの向かいです。



ブルーシートの裏側に回収袋を置いています。車は収集所の前に停めることができます。場内および付近の交通状況にご注意ください。(場内での交通事故・トラブルについては責任を負いません)



収集所に入ってすぐ左側にペットボトルの回収袋が設置してあります。スタッフはいませんので、ご自身で袋に投入してください。



ペットボトルはラベルとキャップをはずし、中身をきれいにした状態で投入してください。

三島小児童「次世代の議会」で提案



「みしまガチャ」道の駅に
手作りの伝統工芸品が入っています

工芸館だより ⑤6 くものづくりの伝承

▲ ガチャを企画・製作した子どもたち

2月18日(水)、道の駅「尾瀬街道みしま宿」にて、「みしまガチャ」の販売が始まりました。この「みしまガチャ」は、令和6年度の次世代の議会で出されたアイデアをもとに、観光客の町内周遊の促進を目的として、三島小学校の5・6年生が企画・製作したものです。

子どもたちは、町の特産品やおすすめスポットについて調べ、どんな景品を入れるか、どこに設置するかを話し合いながら準備を進めてきました。町の人にインタビューをしたり、景品となるストラップやパズルを手作りしたり、設置場所や景品を紹介するポスターを作って町内外に掲示のお願いにも回りました。

販売初日には、子どもたちが自らガチャを設置し、道の駅を訪れたお客様にチラシを配ってPR活動も行いました。「みしまガチャ」を回すと、手作りの景品と一緒に、町内のおすすめ観光スポットを紹介するカードがもらえます。三島町を訪れた際は、ぜひ子どもたちの想いが詰まった「みしまガチャ」をお楽しみいただきたいと思います。



▲ 景品のストラップと桐木目パズル



▲ 景品づくりのようす



▲ 子どもたち作成のポスター

【工芸館からのお知らせ】

3月14・15日(土)(日)第45回三島町生活工芸品展・第25回全国編み組工芸品展開催。
前日13日(金)は14:30より「生活工芸品展表彰式」および「内覧会」を実施します。

☎三島町生活工芸館 ☎(48)5502

令和7年度三島町地域おこし協力隊活動報告会

【日時】令和8年3月13日(金) 午後3時から

【場所】三島町町民センター 視聴覚室

三島町が抱えている課題を解決するため地域おこし協力隊員として日々活動している2名の協力隊員が、日々の活動内容や活動をとおして感じたことなどを発表します。活動報告会には、どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

【発表者】



産業建設課配属
鳥獣対策専門員(3年目)
鈴木 亮



地域政策課配属
地域循環・観光業務(1年目)
茂田 龍揮

地域おこし協力隊 活動誌

深い雪が溶けたあと

茂田 龍揮

ものづくりの本番を迎えた冬の三島町で、編み組細工のヒロロのほか、かしゃ猫とかんじきの作り方を教わりました。

作業をしていると時折、屋根に積もった雪が雪崩れ落ちる音が聞こえてきて、いままで経験したことがない、低く鈍く響くその音にはとさせられませんでした。

大雪のあとには大変な雪かたしが待っていますが、運動不足の解消にちょうどいいと思います。スコップを繰るとき酷使する筋肉は、春からの畑仕事に活かせることも発見しました。奥会津の人々は身体面においても、雪と



▲ 三島町の方に教わりながら自作したかしゃ猫

格闘しながら春からの農作業に備えてきたのでしよう。歳時記は連続した営みだということを三島の冬を経験して分かりました。

ここ数ヶ月はふるさと納税の仕事に注力しています。三島町への納税額は全国の市町村の中でも低い方でしたが、来年度から中間事業者を入れることで、納税額の増加と町の事業の活性化を計っていきます。

ふるさと納税は全国の自治体が力を入れて取り組んでいる事業です。どうしたら三島町の魅力を広く知っていたただけるか、中間事業者と伴走しながら考え、形にしていきたいと思えます。

もし、ふるさと納税の返礼品を提供する事業者になりたい、このサービスは返礼品にできるだろうか、といったご相談がありましたらご連絡ください。

余った再生可能エネルギーの有効活用 ～DR（ダイヤモンド・リスポンス）とは？

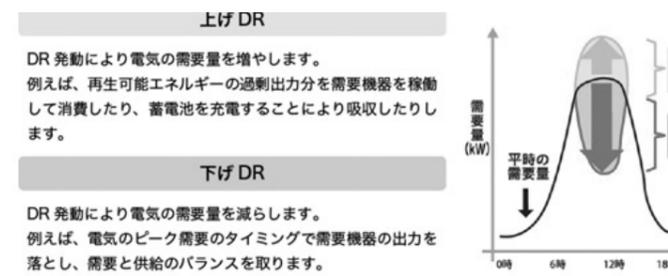
三島町のみなさま、こんにちは。今回は、全国的に再生可能エネルギーが普及してきた結果、新たに生じた「電気が余る現象」と、その対策として注目されている「DR（ダイヤモンド・リスポンス）」というしくみについてご紹介します。

電気を安定して供給するためには、つくる分とつかう分が同じ時に同じ量になっている必要があります。そのため、電力会社はこのバランスを一定にするため、つかわれる電力に合わせてつくる電力を調整しながら、発電所を運転しています。

再生可能エネルギー（再エネ）の導入が全国的に進んでいますが、その中でも大きな割合を占めている太陽光発電には昼間だけ発電するという特徴があります。このため、特に冷房や暖房をあまり使わない春や秋の昼間には太陽光発電による電気が余る現象が全国的に発生してしまっていて、それに対しては「出力制御」という発電を止める措置が取られ、せっかくなかった電気を有効活用できていない状況が起こっています。例えば、2022年度の国内の出力制御の日数は94日でしたが、2024年度には173日と、わずか3年で約2倍に増えてしまいました。

この対策のひとつとして注目されているのが、今回ご紹介する「DR（ダイヤモンド・リスポンス）」になります。普段から皆さんも意識されている省エネは電気を使う量を減らす取組ですが、DRは、それに「電気をいつ使うか」という考え方を加えた取組になります。DRには2種類ありまして、1つめが電気が不足している時間帯に使う量を減らす「下げDR」、2つめが電気が余っている時間帯に使うを増やす「上げDR」になります。下げDRはこれまでの省エネに近い考え方ですのでイメージしやすいと思いますが、上げDRも余っている再エネを有効活用して無駄を減らすことができ、火力発電由来の電気を減らすことにもつながります。

これらDRの取組への参加に対して、各電力会社はポイント進呈などのサービスを始めています。例えば東北電力では「東北電力ecoチャレンジアプリ」を通じてDRに取り組んでほしいタイミングを知らせ、目標達成によりポイントを進呈しているようですので（東北電力アプリとは別なものでご注意ください）、ご関心のある方はのぞいてみてもよいかもしれませんね。



出典：経済産業省資源エネルギー庁：ダイヤモンド・リスポンスってなに？

【参考】

- ・環境省：再エネを無駄にしない“新しい電気の使い方”「DR」とは？
<https://ondankataisaku.env.go.jp/dekokatsu/column/dc202601a/>
- ・経済産業省資源エネルギー庁：ダイヤモンド・リスポンスってなに？
https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/electricity_measures/dr/dr.html
- ・東北電力：東北電力ecoチャレンジアプリ
https://www.tohoku-epco.co.jp/dprivate/sl-denka/saving/dr_aprication/



筆者 なかむら しょうご 中村 省吾

国立環境研究所福島地域協働研究拠点

地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

町史編さん室だより

第122回

昭和期、現三島町域における電話架設と交換手

西川村外二ヶ村組合（以下組合村後の宮下村）に電話が架設されたのは昭和4年（1929）のことです（用途が限定された警察電話等を除く）。同年3月31日に開かれた議会では、電話を架設するための費用を、寄附金を集めたり、小学校基本金で充当することとで賭（まね）つことが議決されました。

未刊行の『三島町近代史』原稿によれば、組合村に電話が開通したのは同年9月11日のことで、宮下郵便局公衆用1台、村役場事務用1台を設置したのははじまりです。昭和8年（1933）には8台が増設された

ことで、宮下郵便局に電話交換台の交換手として五十嵐（後に菅家）富美子氏、栗城初子氏の2名が採用されました。西方村では、昭和10年7月に6台設置（加入）ではじまり、西方郵便局に電話交換台が設置され、交換手として山垣トマ氏、遠藤若子氏の2名を採用、交換業務が行われたといえます。その後、終戦までは電話増設が制限されたようで、昭和19年（1944）の段階で宮下・西方2局で計22台しか設置されていませんでしたが、戦後となる21年には39台が設置されていま

す。昭和31年（1956）には西方郵便局の加入電話13台が宮下郵便局に統合され、計87台となりました。昭和44年（1969）5月までの宮下（西方）郵便局電話加入数は表のとおりです。この年、宮下局の加入電話がダイヤル式となる工事が行われ、12月4日午後10時を以て、電話交換手の必要がなくなりませんでした。

『公民館報みしま』第160号（昭和61年1月発行）には、宮下郵便局初代交換手である菅家富美子氏の回想があり、一部割愛し掲載します。

（前略）昭和七年郵便局の前隣に、その頃にしては珍しくピンクとベージュの混ざったようなペンキ塗りのスマー卜で奇麗な建物が出来上がったのです。（中略）一階が交換室で下が郵便配達の方や通送の方達の休けい所でした。その頃は郵便や小包を運ぶのに柳津から夏は馬車、冬はそりですそれはそれは大変なものでした。

秋のころだったと思います。私は局長さんの家へ呼ばれました。来年から始まる電話の交換手に希望はないかという事でした。（中略）その年の冬に柳津郵便局へ三週間位だったと思います。が研修に行き、中々標準語で話すのが

出来ず苦労した事をおぼえております。昭和八年いよいよ宮下郵便局へ就職です。紫紺のメリンスの袴をはいて出勤です。局長があいさつをされ、辞令を戴きました。（中略、辞令に記されていたのは「事務手日給二十五銭を給す」でした。その時私はかぞえ年十八才、勤務時間は一昼夜交代、夜は非番でも泊まり、これは風紀取締りのためです。一番困った事はその建物の中にトイレがなかった事です。泊まりの人が朝早く帰るとどうも仕様のない時があるのです。家の便所へ特急で行って来るのです。すると交換台の番号がドロップしてチーチーと鳴っているのです。（中略）

私の交換手時代は又私の青春時代でもあったのです。夜の通話証の読み合わせ、それは各局との間違いの有無をたしかめるためです。それが終わると一面識もない者同志いろいろ話し合う楽しい時間なのです。（中略）

一年毎に電話の加入も増加し、市外線も二本から三本になり番号も十二番丸通さんまで延びました。給料も日給八十銭になり、少し余裕もでき、弟妹達に着物や毛糸を買って編んだセーター等もプレゼント出来る程になったのです。（中略）丸八年つとめました。その頃にしてみれば長い職業婦人生活でした。（後略）

宮下（西方）郵便局電話加入数一覧 ※未刊行『三島町近代史』原稿より作成

加入年	4年	8年	9年	10年	14年	17年	18年	19年	21年	22年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
加入年	昭和															
新加入数	2	8	2	(6)	1	1	1	1	17	8+(1)	4	7+(1)	6	6	3	6
計	2	10	12	18	19	20	21	22	39	48	52	60	66	72	75	81
加入年	昭和															
新加入数	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年	42年	43年	44年		
計	1+(5)	13	15	9	6	7	18	31	4	19	14	11	16	3		
備考	87	100	115	124	130	137	155	186	190	209	223	234	250	253		

（ ）は西方郵便局電話加入数

宮下病院からのお知らせ

糖尿病と歯周病について

宮下病院 診療部リハビリテーション
理学療法士 横山順一

糖尿病になると、一般の人と比べて2.6倍も歯周病にかかりやすいと言われます。糖尿病の方は、健康な人に比べて唾液の分泌量が低下し、唾液中のグルコース濃度（糖）が上昇し、歯垢の付着や歯周病菌などの増殖が増悪すると考えられています。

歯周病の予防には、①毎日の歯ブラシ習慣や歯科医院で予防クリーニング②十分な唾液分泌：よく噛む③適切な運動：15～30分の運動を2～3回/週で、安定した糖代謝を維持することが大切です。

福島県立宮下病院 ☎(52)2321

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました

ふるさと納税（1月分）

伊藤 貴之 様（福島県）
星野 直哉 様（栃木県）
井口 清志 様（神奈川県）
寄附件数 28 件 計 716,000 円

お悔み申し上げます

長郷 マサ子 様（100歳・間方）

町の人口と世帯（2月1日現在）

人口	1,281	増	-3	出生	0
男	648		-2	死亡	2
女	633	減	-1	転入	1
世帯	661		-2	転出	2

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

ひまわりサロン 3月9日⑨ 午前10時から 町民センター	サロンなごみ 3月12日⑩ 午前10時から 西方ふるさとセンター
大登サロン 3月9日⑨ 正午から 大登生活改善センター	間方いきいきクラブ 3月13日⑪ 午前10時から 間方集会所
滝谷和楽塾 3月10日⑫ 午前10時から 滝谷集会所	サロンないり 3月16日⑬ 午前10時から 名入集会所
高清水・小山 いきいきサロン 3月12日⑩ 午前10時から 高清水集会所	浅岐あつたかサロン 3月24日⑭ 午前10時から 浅岐集会所
	ほがらかサロン 3月25日⑮ 午前10時から 森の校舎カタクリ

町社会福祉協議会へのご寄附
（ご遺志によるもの）

長郷 敏一 様（間方）

社会福祉協議会 ☎(52) 3344

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ三島通信で健康教室を放送中です。

3月「糖尿病と骨折」です。ぜひご覧ください。



福島県立宮下病院 ☎(52) 2321

3月分納税のご案内

【納期限 3月31日⑫】

- ▼ 国民健康保険税（随期）
 - ▼ 介護保険料（普通徴収）（随期）
 - ▼ 後期高齢者保険料（普通徴収）（随期）
- 忘れずに納付ください。

町民課 町民係 ☎(48) 5555

会津坂下警察署からのお知らせ

フィッシングメールにご注意を！

①フィッシングメールとは？

実在のサービスや企業をかたったメールを開き、記載されたURLをクリックすることで、フィッシングサイトという詐欺サイトに誘導されます。誘導された詐欺サイトで、ID・パスワード・クレジットカード情報などの個人情報を入力してしまうと、そのまま情報が盗み取られて、銀行口座から金銭を引き出される事もあります。

②入力を求められる情報の例

- 金融機関の口座番号、クレジットカード番号、暗証番号（ワンタイムパスワード、乱数表の番号等）
- 住所、氏名、電話番号、生年月日
- 電子メール、インターネットバンキング、SNSアカウント等のID、パスワード等
- 運転免許証、マイナンバーカード、乱数表等の画像情報

③フィッシング被害に遭わないために！

- 不用意にリンクを開かない！
- 公式サイトや公式アプリを利用する！
- ログイン情報等を安易に入力しない！
- 迷惑メッセージブロック機能を活用する！

④フィッシングの被害にあったら

- サービス提供会社に相談する（被害の補償等）
- パスワード等を変更する
- 警察に通報・相談する

参考リンク

フィッシング110番

フィッシングサイトを発見した場合は、当該フィッシングサイトのURLをフィッシング110番に通報してください。



サイバー事案に関する通報等のオンライン受付窓口

フィッシングの被害に遭った場合は、最寄りの警察署又はサイバー事案に関する通報等のオンライン受付窓口へ通報・相談してください。



会津坂下警察署警務係 ☎0242 (83) 3451

消防署からのお知らせ

住宅用火災警報器は
設置してから約10年を経過すると
電池切れや交換の時期を迎えます！

住宅用火災警報器は
維持・管理が大切です！

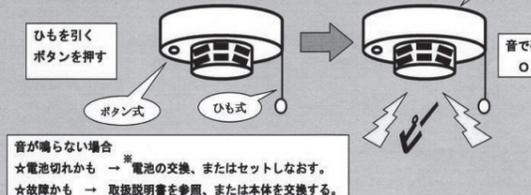


住宅用火災警報器はすべての住宅の寝室と寝室が2階以上にある場合の階段に設置が義務となっています。

①点検は定期的に！

点検をしましょう

点検方法はひも式とボタン式があり、機種によって異なります。取扱説明書を確認しましょう。



本体のボタンを押すか、付属の紐を引きます。正常な場合、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。少なくとも年に2回は点検しましょう。

反応しない場合はすぐに交換しましょう。

②交換の目安は10年

設置から10年以上の場合は交換しましょう

設置年数は、設置の時に記入した設置年月や交換期間で確認できます。

記載がない場合は、製造年数でおおよその時期が分かります。

会津坂下消防署 三島出張所
☎(52) 3032 / FAX (52) 3033



【三島町・福島大学連携事業】

野生動物との共存

・里山地域づくり

実践報告会

【開催日】3月20日(金)祝

【時間】11:00 開場 (飲食・展示)
13:00 報告会開始

【会場】三島町交流センター山びこ

【申込期限】3月16日(月) 締切

報告内容

【1部】 「三島町における鳥獣対策の状況報告」

時間：13:05～13:30

講師：鳥獣対策専門員 鈴木 亮

【2部】 「2025年度のクマ問題と今後に向けた里山・生態系管理の課題」

時間：13:40～14:05

講師：福島大学食農学類 准教授 望月 翔太

【3部】 「里山と農業の資源循環と地域活性化をどうつなげるか」

時間：14:15～15:15

講師：福島大学食農学類 准教授 林 薫平

三島町では福島大学食農学類と連携して、農林水産物等の地域資源を活用した地域内発型の産業振興と地域産品の付加価値化を図るために循環型堆肥技術の取り組みを進めています。

また、里山地域づくりの一環として地域の方の協力を得ながら、緩衝帯整備や ICT 機器を活用した鳥獣の行動把握を実施することで三島町モデルの鳥獣対策を行っています。

これまで活動してきたことを福島大学食農学類の先生と三島町鳥獣対策専門員による報告の場として開催しますので、ぜひご来場ください。

【後援】 福島大学・福島県会津地方振興局

【主催】 三島町役場産業建設課

【連絡先】 ☎0241-48-5566